

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>・生徒が自己肯定感をもてる授業を推進し、研究授業を活用するなどして教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。</p> <p>・卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な学習の時間」における資格取得の向上への取組など、進路支援の充実に努めることが必要である。</p> <p>・支援の必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりをより推進することが必要である。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>(1) 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実</p> <p>(2) 部活動の充実</p> <p>(3) 家庭、地域社会、異校種の学校との連携強化</p> <p>(4) 教職員の資質向上と健康増進</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	○生徒が自己肯定感をもてるような授業の工夫と改善	・理解しやすい授業、わかる授業、参加している実感がもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4:80%以上であった。 3:60%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。	3	・今年度は79.5%であり、80%に近い数字を得ることができた。80%を超えた昨年を下回る数字となったが、生徒は一つ一つの質問に丁寧に回答してくれた。結果を真摯に受け止めた。 ・定時制は人数は少ないが、学力差の大きい学習集団なので、来年度以降も理解しやすい授業、わかる授業に向け教材研究を重ね、生徒が自己肯定感をもてるよう授業を改善し工夫していきたい。	・4年間頑張った卒業する達成感を生徒に味わってほしい。 ・生徒一人ひとりに配慮した目標設定を行ったり、家庭にも協力を得たりしながら、継続的な取組をしてほしい。 ・指導は大変だと思う。感謝している。 ・志願者の増加は嬉しい。	B
	○教員相互の授業研究・公開授業の推進	・本校、他校、小中学校などの公開授業に参加し、授業研究を進める。	4:3回授業参観し、授業研究に努めた。 3:2回授業参観し、授業研究に努めた。 2:1回授業参観し、授業研究に努めた。 1:授業参観することはなかった。	3	・校内における教員相互の授業参観は前向きに実施され、2回以上参観し授業研究に努めた。その結果、指導力の向上に役立てることができた。また他の定時制高校の公開授業に参加し情報交換を行うことで、定時制の実情に応じた指導法を考えるよい機会となった。 ・初任者研修に伴う研究授業を実施し、全日制定時制の多くの教員に参観してもらい、全定の連携と授業研究を進めることができた。		
生徒指導	○意欲傾向の見られる生徒への状況改善に向けて、効果的な対策の推進	・意欲傾向の見られる生徒について、欠席・欠課・遅刻等の統計を活かしながら、教務とも連携し指導を徹底させる。また、本人の家庭環境・状況についても看過せぬよう、家庭との連絡を行う。	4:統計の分析を各学期におこない、指導の徹底が図られた。 3:統計の分析を前・後期の2回実施し、指導の徹底がほぼ図られた。 2:統計の分析を年1回実施し、指導に生かされた。 1:指導や連絡が不十分であった。	4	・教務課との連携により、毎月および定期考査後の出欠席確認と統計の分析を行い、必要な生徒には指導を行ってきた。また、出席が常ではない者に対しては保護者にも電話連絡や文書送付により、厳しい注意喚起を促し、家庭での指導をお願いしている。 ・上記の方策にもかかわらず、改善されない生徒もいるのが現状である。直接的な指導に加えて、意識と生活様式を変えるべきとの本人の自覚を待つことも必要となっている。	・生徒への対応は難しいと思われる。多岐にわたるサポートの必要性を感じる。 ・家庭の様子の把握にも努めてほしい。 ・生徒会や家庭とも協力して、地道に取り組んでほしい。	B
	○スクールカウンセラー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を確かなものとするために外部との協力をさらに発展させる。また保護者との連絡を頻繁に行い、協力と相談を密にする。	4:校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3:校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2:生徒への対応が図られた。 1:生徒への対応が十分には図られず、保護者の協力も望めなかった。	2	・繊細な家庭の問題を抱えている生徒が複数在籍しているため、常時の職員間情報交換において、個々の対応や支援を協議してきたがその対応に差が生じることも多い。職員の意識の向上を図る必要がある。 ・校外の各種専門機関やSC、SSWとの協力において職員間との連携は十分に成されてきた。しかし、結果的に生徒への有効な支援につながらないことも多く、やり直しはきかないため、運用に躊躇する場面もあった。		
進路指導	○個々の生徒の進路支援の充実	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。	4:7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができ具体的な進路に結びついた。 2:情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1:情報伝達に終わった。	4	・今年度の卒業生が少なかったこともあるが、全員に対し具体的な進路支援ができたと思う。自己就職を決めた生徒においても本人・保護者納得の上で、しばらくその職種で働くことを決意した。 ・職員への連絡も職員会議を通し経過連絡を行った。	・目に見える成果が出て、生徒が自信をもてる状況はすばらしい。 ・就職活動にアドバイスをあげてほしい。 ・自己決定力を育てたり、キャリア教育の充実が大切と思う。協力できることあれば要請してほしい。	A
		・「総合的な学習の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。	4:生徒の70%以上が受検し、合格率は60%以上であった。 3:生徒の70%以上が受検し、合格率は40%以上であった。 2:生徒の50%以上が受検した。 1:生徒の50%未満しか受検しなかった。	3	・28名が受検し、15名が合格した。受検率は90.3%(昨年度83.8%)で昨年度より上回った。合格率も53.5%で昨年度の38.7%を上回った。受検率が上がった原因として、総合的な学習の時間におけるキャリアアップで、資格取得の意欲が向上したため。また、合格率が上がった原因は昨年度に比べ、受検する級の設定が適切だったためと考えられる。漢字検定2級や英語検定準2級などの上位級に挑戦し合格できた生徒もいた。全体的に生徒の大きな自信につながる成果だと考える。		
特別活動	○生徒会における自主的な企画と活動を促し、生徒自身の力で良き慣習が引き継がれるように支援	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会の4つの生徒会行事において、生徒自身の自己工夫を促し、生徒会役員のみならず全生徒を主体的に活動させ、学校行事を思い出しに残るものとさせる。	4:すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができなかった。	3	・生徒会役員の改選では珍しく、職員側の根回しや説得に依ることなく生徒会長をはじめ役員の上候補者がそろい、各行事についても自主的な発案や変更を試みている。教員側の指示や誘導にも是非を問わず、頼もしい役員組織である。 ・集団行動になじみず行事参加が苦手な生徒について、「それも個性である」と静観することも昨今の教育的配慮であるが、やはり徐々に気軽に参加できるような工夫を考えたい。	・限られた時間であるが、しっかり生徒に支援をしてほしい。 ・様々な交流が行われることを期待している。	B
業務改善	組織的な取組	・学校説明会の実施方法を見直す。特に、プレゼンテーションの内容について見直しを行う。	4:プレゼンテーションの内容を見直し、さらに説明会の運営の見直しも行った。 3:プレゼンテーションの内容を見直し、半分以上刷新した。 2:プレゼンテーションの内容を見直し、年度による変更を行った。 1:見直しに十分な時間が取れなかった。	3	・プレゼンテーションの内容に関して、写真の入れ替え、説明や文章をわかりやすくするなど、7割程度内容を刷新した。運営(説明会の進め方)については、昨年と同様の流れであった。参加者が24名(昨年度より5名増)、アンケートでも「よくわかった」が87%であった。「(まあまあ)よかった」13% ・一方教員から、説明会の複数回実施、中学校教員への個別相談対応、中学生や保護者への後日面談など改善に向けた提案があった。本校定時制の魅力がより伝わる説明会へと引き続き改善に取り組みたい。	・インフラの整備にも努めてほしい。 ・業務改善も大切だが、教職員が働きやすい職場環境づくりもより大切である。 ・事故を起こさないという観点も必要である。	A
	整理整頓	・業務の実施状況を把握することも配慮しつつ、定期的に職員室の書架や校内サーバ内の文書を整理する。	4:学期に1回以上整理をした。 3:年間2回整理をした。 2:年間1回しか出来なかった。 1:1回も出来なかった。	4	・学期の区切りにこだわらず、定期的に職員室内の書架や校内サーバの文書整理を行った。また、教員への声掛けにより、協力を求めながら、継続的に整理を行い情報面での環境整備を行った。 ・今後も業務の実施状況を把握しながら、引き続き職員室の情報整理を行うとともに、整理された環境が維持されるように、定期点検を続けていきたい。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【成果】	<p>①卒業生徒全員に具体的な進路支援が行われ、進路先未定生徒はいなかった。</p> <p>②総合的な学習の時間のキャリアアップの取組により、資格試験の受験率、合格率ともに昨年度を上回った。さらに、一般に取得に難しい上位級に合格する者も3名おり、生徒の自信につながった。</p> <p>③生徒指導課と教務課が協力し、保護者への連絡を含め、怠学傾向の見られる生徒の指導にあたった。これにより、授業の欠課時数超過による原級留置はなかった。</p> <p>全体として、「先生方のサポートが行き届いている。」との評価も学校関係者からいただいている。</p>
【課題】	<p>①授業アンケートの実施、公開授業や授業参観による授業研究などにより、指導力の向上に努めてきたが、学習指導でも配慮が必要な生徒は増えてきており、継続して取り組む必要がある。</p> <p>②教員の様々な取組にもかかわらず状況が改善しない、問題が複雑で解決の見通しがもてないなど教員が手詰り感を抱いてしまう事案がわずかであるが増えている。</p> <p>③入学志願生徒の多様化が見られるので、学校説明会の実施回数や形態、問い合わせへの対応方法にも見直しや改善が求められる。</p>

7 次年度への改善策	
<p>①様々な研修の機会を活用し、個々人で止めずに教員全体の研修の機会につなげて、指導力の向上に取り組む。 また、教育相談や特別支援教育に関する研修を継続して企画・実施する。</p> <p>②これまで職員会議や連絡会で行ってきた生徒情報交換をより充実させ、教員全体で情報の共有を図り、難しい事案には全員で関われるような体制づくりを行う。</p> <p>③学校説明会の実施回数や形態、問い合わせへの対応方法について、可能性も含めて具体的な見直しや改善の検討に入る。</p>	